怖い日本脳炎の流行期
直射日光にも注意

日本脳炎の流行期は七月中旬から九月下旬までが最も多いといわれますが、これはこの頃の気温が日本脳炎の病源菌の繁殖に一番適しているからといわれております。日本脳炎はこれまでも、老人にかかる者が多く非常に死亡率が高く、なおっても言語障害、運動麻痺、智能障害などの後で大変やっかいな病気です。

昨年佐渡で二十四人が、日本脳炎患者が発生しましたが、そのうち十五名の死亡者が出ております。日本脳炎の流行は十二月頃からやってくるといわれており、今年から寒冷の年節に多いことはだれでも知っていることです。市では五月に入り急激に増加患者が出ております。小合南地区に十二名、

のはコガタアカイエ蚊といわれ、直射日光に当たらないこと。

3、過労や睡眠不足をしないこと

などがあげられております。

◎予防としては

1、予防接種をすること。

2、長時間直射日光に当たる者は帽子をかぶること。

3、便所の改善
便所の汲み取り口を密閉する。便所の窓には金網を張ってハエの出入りを防ぐ。

4、蚊、蠅、ねずみの駆除
台所の整とハエ、ねずみの駆除をおこなわないと完璧とはいえません。

5、蚊、蠅、蚤を駆逐すること
以上日常生活の側面の注意により病気を予防することが出来ますが、最近蚊の発生が多くなってきたら、すぐに医師の診察を受けることが必要であります。蚊の駆除には、殺虫剤の使用が最も効果的であります。蚊の発生は、一番蚊の発生源である水田、沼、池の周囲、水路、用水路、ドブ、ゴミ箱、ゴミ捨場、便所、家畜小屋、鶏舎、犬小屋